

教育におけるコンピュータ利用に関する大学生の意識調査

6 J-1

滝沢武信（早大）

も最終回にアンケートを行う予定である。

1. はじめに

早稲田大学では全学対象の総合講座形式の講義科目「教育とコンピュータ」（半期科目）を昨年度より開講している。筆者らは1996年度前期と1997年度後期に同科目を担当し、講義開始時と終了時にコンピュータ利用経験と教職志望等についてアンケート調査を行った。ここでは昨年度と本年度のプレアンケートの比較と昨年度のポストアンケートの分析結果について述べる。

2. 講義の概要

本講義は早稲田大学のメディア・ネットワークセンター（MNC）に設けられている「情報化社会概論」のいくつかあるクラスの一つとして1996年より開講された。クラス数は各年度1クラスであり、昨年度は前期に設置され本年度は後期に設置された。受講生は学部を限らず1年生以上となっている。また、コンピュータ学習経験や教職志望等については特に問わないで募集した。

受講生の構成は1996年度は8学部2大学院研究科、1年生からD1まで計39名、1997年度は7学部2大学院研究科、1年生からM3まで計59名である。

両年度とも初回に説明を行うと同時に受講生のバックグラウンドの調査とこの科目に期待するもの等のアンケートを行った。また、1996年度は最終回に講座全体についての評価と感想についてアンケートを行った。1997年度

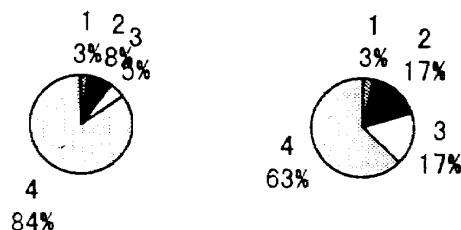
3. プレアンケートの比較

プレアンケートの項目は1996年度、1997年度とも（A）学生のID、（B）高校時代までのコンピュータ学習歴、（C）大学入学後のコンピュータ学習歴、（D）教職志望の有無、（E）この科目に期待するもの、であり（B）、（C）、（D）については選択肢形式での回答を求めた。

選択肢は（B）では＜1＞講義を受けた、＜2＞学校で実習した、＜3＞自習した、＜4＞学習経験なし、（C）では＜1＞講義を受けた、＜2＞実習した、＜3＞自習した、＜4＞特に経験なし、（D）では＜1＞将来教員になるつもりである、＜2＞教員になるかもしれない、＜3＞教員になるつもりはない、である。

各年度の（B）、（C）、（D）の調査結果のグラフを図1～3に示す。2年度の調査であり、また対象人数も少ないので統計的なことはあまり言えないが、一般的な傾向を見ることができる。

1997年度後期の調査結果を1996年度前期のものと比較すると、（B）では高校時代までにコンピュータの講義を受けた学生の割合に変化はないが、高校時代までに学校で実習たか自習した学生は2～3倍に増えている、（C）では大学に入学してからコンピュータの講義を



1996前期

1997後期

図1 コンピュータ学習経験（高校まで）

A Survey of University Students' Intentions on Computers in Education

Takenobu TAKIZAWA

WASEDA University

受けた学生が3倍以上に増えているのに対し学習経験なしの学生が3分の1以下に減っている。

(D)では将来教員になるつもりである学生の割合に大きな変化はないが、教員になるつもりのない学生の割合は1/2から3/4に増えている。

この講座の受講生はコンピュータないしは教職に多少の興味を持つ学生が多いと考えられるが、一般の学生と高校時代までにコンピュータに関するバックグラウンドに大きな違いがあるとは考えられない。したがって、(B)における変化は一般の高校生にとって、コンピュータが身近なものになりつつあることを示しているのではないかと考えられる。(C)における変化は1996年度は前期、1997年度は後期に調査したことに原因があるかもしれない。また、MNCの取り組みが変化したためかもしれない。この点についてはさらに来年度以降も調査する必要があると思われる。(D)における変化は一般の学生の教職に対する考え方が変化したのか、この講座をとる学生の層が変化したのか現時点では不明である。この点についても来年度以降の調査が必要であると思われる。

4. 1996年度のポストアンケート

1996年度のポストアンケートの項目は(a)学生のID、(b)授業はわかりやすいか、(c)例題はわかりやすいか、(d)この講義はあなたにとって役に立つか、(e)後輩に受講を勧めるか、であり、これらを各3点満

点で評価する形式の回答を集計した。回答者は28名である。

結果の平均は(b)は1.9、(c)は1.9、(d)は1.9、(e)は1.8であり、授業や例題はどちらかといえばわかりやすい、この講義はどちらかといえば役に立つ、どちらかといえば後輩に勧めるという評価を得たと考えられる。実際、昨年度前期に比べ本年度後期の方が受講人数が多かったのは先輩に勧められた学生がいたためかもしれないが、この点は調査を行っていないので不明である。

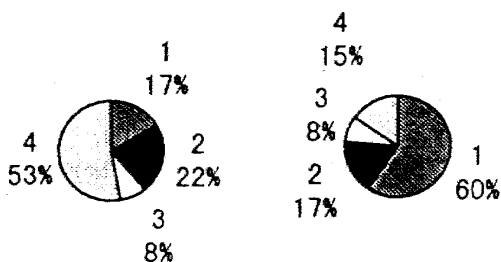
1997年度も1996年度と同様な項目に関してポストアンケートを行う予定である。その結果については講演発表の際に述べる。

5. おわりに

昨年度と本年度の受講生のアンケート結果とその分析について述べた。調査した限りは各項目でポジティブなものが得られたと思われるが、まだデータは不十分であるので、今後も調査を進める。

なお、来年度もこの講座の設置が決まったので、来年度についてもアンケート調査を行うこととしたい。

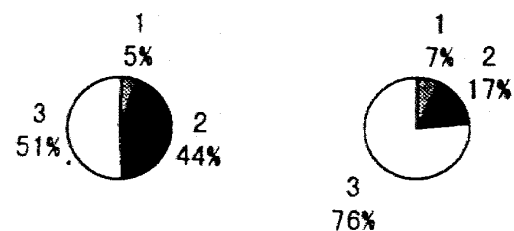
末筆ながら、本講座の講師を担当していただいた早稲田大学の山下元教授、東京工業大学の赤堀侃司教授、放送教育開発センターの永岡慶三教授、玉川大学の横井正宏教授、山梨大学の金川秀也助教授、神奈川県立教育センターの武沢護氏に感謝する。



1996前期

1997後期

図2 コンピュータ学習経験 (大学)



1996前期

1997後期

図3 教員志望